

宮城県図書館建設事業

受賞機関 宮城県土木部営繕課

はじめに

宮城県図書館は明治14年に創設され、昭和43年に旧施設が建設されたが、施設の狭隘化、老朽化等により県立図書館としての機能を十分に発揮することが困難で、県民ニーズにも対応できない状況になっていた。

そこで、平成4年策定の「宮城県図書館建設基本構想」に基づき、生涯学習中核施設として、新しい図書館の計画がスタートした。

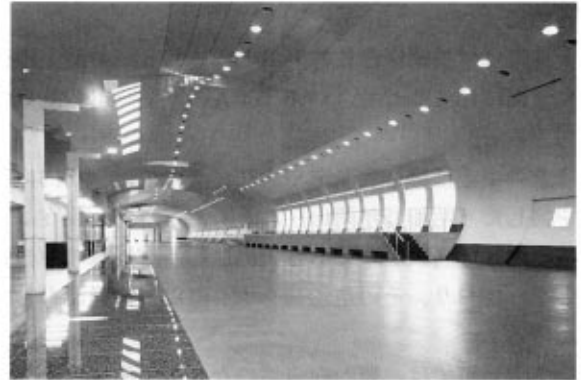
新しい宮城県図書館は、「多様なプレゼンテーション機能をもつ文化センターとしての図書館」、「全ての人々を楽しく迎え入れる公園としての図書館」、「明るい未来を象徴する図書館」を理念として掲げ、現代の文化を象徴し、未来の文化を暗示するような建築として計画された。

建物の特徴

建築的には、自然の地形と植生が残された敷地から67m×200mを樹木といくつかの尾根と二つの谷を残したまま挿入するように切り取り、地形を残したまま橋を架けるように建築を渡している。主要部分は「空中閲覧室」として木々の上に浮かび、谷は建築化された「地形広場」となる。そして、駐車場（将来、ピロティ式の増築部分となる）は、建物と背後の尾根、コンクリート擁壁に囲まれた「沈んだ庭」となる。また、建物南側には遊歩道「書見の道」が設けられ、敷地全体が公園として整備されている。

内部空間は、長さ200mの直線的なモール遊歩道形式の開架閲覧室（空中閲覧室）に最大の特徴を持ち、また、情報の蓄積や交換について主導的な役割を果たすという考えから「多目的視聴覚室ホール」、「情報発信室」、「ミニシアター」等が用意され、「地形広場」と合わせ、多様な情報のプレゼンテーション空間を形成している。

機能的には、蔵書数で約150万冊、開架図書数約30万冊の計画で、搬送システムの導入、AVシステムの充実や市町村図書館とのネットワークによる検索貸し出しシステム、館内の検索システムなど、ソフト面での機能向上にも努めている。さらに、新しい取り組みとして、国内外の6人のアーティストが参加し、建築計画の初期の段階から建築家とコラボレートすることにより、建築とアートの一休感ある空間を構成している。



空中閲覧室



地形広場

建築概要

位置：宮城県仙台市泉区紫山1-1
 規模構造：SRC造一部RC造、一部S造
 地下1階地上4階、約17,000㎡
 設計：原広司+アトリエ・ファイ建築研究所

受賞賛助会員 (株)大林組東北支店、(株)鴻池組東北支店

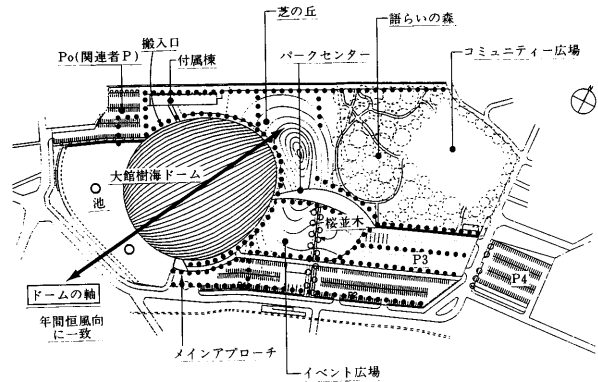
大館地区多目的ドーム建設工事（大館樹海ドーム）

受賞機関 秋田県企画調整部地域開発課
秋田県土木部営繕課

はじめに

当施設は積雪寒冷地の冬季間でも屋内で野球をはじめ各種スポーツ、イベントに利用できる多目的ドームとして、かつ秋田県北部の中核都市である大館市及びその周辺地区の活性化の一助となる期待を込めて建設されたものである。

平成9年7月のオープン後は、プロ野球、大相撲等幅広い催事に利用され、今後も地区や各種団体の運動会規模のものから2001ワールドゲームズ（秋田県開催）のような世界規模のものまで様々なイベント開催が予定されており、当初の期待に応える活用がなされている。



位置図

事業の概要

地場産材の秋田杉大断面集成材を活用し、木造ドームの規模としては世界最大級（長辺178m、単辺157m、最高高さ52m）である。

実施機関：秋田県

実施期間：平成7年7月1日～平成9年6月30日

工事費：約78億7,000万円

所在地：秋田県大館市

規模・構造：下部構造：鉄筋コンクリート造2階建

上部構造：木造アーチトラス、秋田杉大断面集成材

建築面積：約21,911㎡

延床面積：約23,218㎡

客席数：5,000席（最大10,000人収容可能）



ドーム内部



駐車場側の外観

特長

設計は「自然が生み出したドーム、自然と融け合うドーム、自然を作り出すドーム」という3つのコンセプトを基に、外部の風の流れや内部での野球の打球軌跡を考慮した美しい流線型の「卵形ドーム」で計画され、自然条件や周辺ランドスケープに配慮したものとなっている。

屋根架構は、秋田杉大断面集成材をアーチ主材とし、束材・ブレース等に鋼材を組み合わせた2方向アーチトラスで、屋根幕のテフロン二重幕とあわせ精緻で優美な内部空間を創出している。また、大量でかつ良質な材料を求められた秋田杉大断面集成材の確保については、県内木材産業界の協力で原木丸太を全数秋田県北地区で調達することができた。

さらに、丸太、ひき板毎に強度試験等の徹底した品質

管理のもとで製造した。そのほか、室内環境については、夏は外周部の開閉ルーバーから人工池の涼風を取り入れ、井戸水を利用した屋根散水などにより快適な室内環境を確保し、冬は客席下とアリーナからの温風吹き出しによる暖房方式としている。設備面では、自家発電施設の廃熱を融雪やシャワーに利用する配慮もなされている。

地球市民かながわプラザ及び自治総合研究センター等新築工事

受賞機関 神奈川県都市部建築工事課
横浜市

はじめに

本施設は、JR 根岸線本郷台駅に近接した敷地に県と市が協調して3つの要素を有する施設を一体的に建設した複合施設であり、文化性豊かな活動の拠点として、広く県民・市民からの活用の場として期待されている。

1. 地球市民かながわプラザ

子供たちの豊かな感性を育み、世界の人々の暮らしや文化の多様性などについての国際理解と環境保全などの地球規模の課題や国際平和への認識を深め意識を培うなど、地球市民としての学習の場の提供と活動支援の拠点。

2. 自治総合研究センター・市町村職員研修センター

多様な県民ニーズに対応する職員の人材育成をハード・ソフトの両面から支える研究・研修の拠点。

3. 栄区民文化センター

市民自らの文化活動の場を提供し、地域に根ざした個性ある文化を創造する拠点。

事業の特徴

設計にあたっては、本施設の理念・目標にふさわしいテーマを「地球と地域を結ぶ国際文化ゾーン」と定め指名設計競技を行った。

建物全体を円形プラン中心にまとめることにより、文化的拠点としてのイメージを強調し、かつ設計コンセプトより、宇宙船「地球号」を表現している。また、敷地の隅角部を中心に効果的なオープンスペースを確保し、地域住民に公開し、都市景観的にも寄与するよう配慮して設計している。

各施設には、建物中心部に設けた直径32mのアトリウムからアプローチできるように配置した。

また、身障者対策を含めた福祉面では、明確な避難動線の確保、段差解消、手摺の設置等の配慮をし環境面では、雨水再利用、節水システム等を採用した。

施工に際しては、円形プランによる建物躯体は曲線を排除し、多面体の構成により型枠などのコスト縮減を図った。また、断面構成等の建物形態が複雑で、かつ周辺が住宅地のため制約があったが工程管理、労務管理など安全性を重視した施工計画をたて、関係者間で十分な協議を行った結果、工期内に円滑な施工が行われた。



内部のアトリウム



全景

事業概要

敷地面積：24,960m²

建築面積：10,170m²

延床面積：28,713m²

構造規模：SRC 造地下1階地上5階（一部RC造）

工期：1994年12月～1997年6月

受賞賛助会員 (株)大林組横浜支店

福井県立音楽堂建設事業

受賞機関 福井県土木部営繕課

はじめに

福井県は「香り高い音文化の創造」を目指し、音楽の芸術文化と自然環境が融合した福井県立音楽堂整備事業を推進してきた。計画策定から7年の歳月を経て、平成9年9月20日に「ハーモニーホールふくい」（一般公募による愛称）として開館を迎えることができた。

この完成により、最高水準の音響性能を誇るホールにおいて、県民が素晴らしい音楽を鑑賞できるようになるとともに、音楽活動をしている方々が気楽に練習し、その成果を発表する場をもつことができるようになった。

施設概要

外観は、永年の雪風に耐えた福井の民家をデザインイメージを出発点としており、大小2つのホールの大屋根に耐久性の高い材料の使用と最新の工法を採用することにより、現代建築へと昇華させている。

この大小2つのホールの大屋根が建ち並ぶ姿は、平坦な田園地帯の中でひときわ存在感を感じさせ、また、南池に面して流れるようなカーブを描くホワイトのガラス面は、ヴァイオリンの優雅なエッジを連想させてくれる。大ホール（1,456席）は、最高水準の音響性能を追求するためにシューボックスタイプのクラシック専用ホールの形態とし、小ホール（610席）は、県民の様々な音楽活動の発表の場として活用するために、残響可変装置を完備したセミアリーナタイプの多目的ホールの形態としている。また、大小ホールの中央に位置する管理棟には大小6室の練習室を配置し、オーケストラから個人練習まで幅広い利用を可能としている。

本施設は最高水準の音響性能の保持のみならず、施設面においても、客席に聴覚障害者用磁気ループ設備及び親子室を完備している。

また、指揮者や演奏者の開演前の緊張感を少しでも緩和するため、楽屋側に裏方というイメージを一新する大空間のロビーやラウンジを設置する一方、楽器等の搬入を考慮して、通路・リハーサル室及び舞台の間に段差を設けず、ホワイトまでのピアノ移動も可能としている。

所在地：福井市今市地係

敷地面積：67,136㎡

建築面積：8,310㎡（付属棟含まず）

延べ面積：11,649㎡（付属棟含まず）



関連事業との連携を図り整備された福井県立音楽堂



福井の伝統的民家を象徴した大小ホールの大屋根



最高水準の音響性能を追求したショーボックス型の大ホール

構造等：SRC造地上3階／地下1階

（高さ：大ホール 約31.5m、

小ホール 約23.5m）

付属建物：ガーデン喫茶、屋外便所、車庫、身障者駐車場上家、駐輪場等

事業費：約108億円

受賞賛助会員 飛鳥建設(株)北陸支店、前田建設工業(株)福井支店

県立日南病院建設工事

受賞機関 宮崎県県立日南病院建設工事事務所

はじめに

県立日南病院は、昭和23年の開院以来、県南地区である日南・串間地域（2市2町）の中核病院として、医療活動の中心的役割を担ってきた。

しかし、当病院は、昭和30年代に建てられた施設がほとんどで、老朽化が進み、また、医療ニーズが高度化・多様化する中で、病院機能のより一層の充実が求められていた。

このため、旧病院の南西丘陵地に全面的に移転改築することになり、平成7年度から3カ年の歳月と事業費約140億円をかけて、平成10年2月にオープンした。

事業の特徴

新病院では、「患者本位の病院」、「21世紀を目指す高機能総合病院」、「地域社会に貢献する病院」という基本コンセプトを掲げ、集中治療機能、周産期医療機能、高度診療機能の整備充実を行い、より良質で適切な医療、地域に根ざした細やかな医療が提供できる高機能総合病院を目指した。

施設の特徴

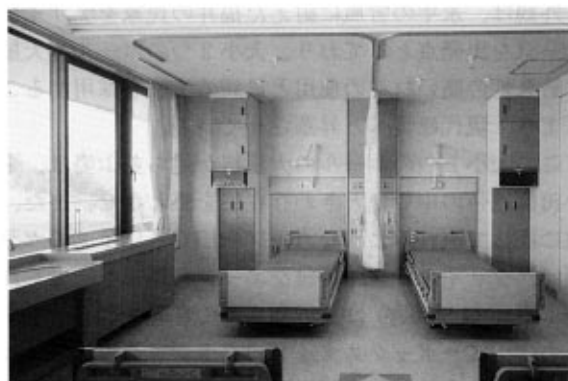
計画にあたっては、病院としての従来のイメージを払拭する“明るい病院、あたたかい病院”をモチーフとした。

具体的には、来院者が最初に接するエントランスホールは、木製の格子天井を配した2層吹抜けとなっており、三方から自然光が入る明るく開放的な空間になっている。

また、各所に光庭を配し、居室はもちろん、廊下にも自然光が入るようにし、一般病室、待合い、廊下等の天井照明に、やわらかさ・あたたかさを醸し出す間接照明を取り入れ、患者の方々がゆとりと安らぎを感じる施設とした。その他にも、リニアモータ式高速搬送システム、手術機材無人回収搬送システムの導入による医療業務の効率化、天水（雨水、井水）の利用によるランニングコストの低減、窒素消火設備の採用による防災機能の安全性の向上を図った。



エントランスホール



4床室

施設概要

敷地面積：31,650㎡

延床面積：22,400㎡

構造規模：SRC造地下1階、地上6階、塔屋2階

病床数：340床

おわりに

平成9年3月には、災害拠点病院（地域災害医療センター）に指定され、中核病院としてますますその重要性が増してきた。

その一方で、地域の方々に親しみをこめて“病院らしくない病院”と言われており、病院建設に携わった者としては、うれしい一言である。

桐生市市民文化会館建設事業

受賞機関 桐生市

はじめに

桐生市は関東平野の最北部に位置し、赤城山をはじめとする美しい山々に囲まれ、渡良瀬川、桐生川の清流が市内を流れる自然環境に恵まれた街である。

市民文化活動の中心施設であった旧「産業文化会館」は老朽化と、その設備面において高度化・多様化するニーズに応えられなくなったため、当市民文化会館の建設構想が策定され、平成9年度に完成した。

①優れた芸術文化を鑑賞する場、②市民の自主的学習と発表の場、③人と人との交流の場以上の3点を整備することにより、文化の振興を核に、まちに潤いと活力を持たせ、未来像である「ハイテクとファッションのまち桐生」の実現を目指すとともに、桐生広域圏並びに両毛広域都市圏発展の一翼を担おうとするものである。

施設の特長

織物のまち「桐生」の原点にある「繭」を建築のイメージコンセプトとして、本市の地形と景観に対応させるため、大きく3つの空間を関係づける計画である。芝の庭を持つスカイホール（大会議研修室）を載せた繭皿の大天井と、それを支持するシルクホールと、繭筒型の小ホールが分節したシンプルな造形としている。

施設の中心的機能を担うシルクホールは、最大1,517人収容でクラシックコンサートをはじめ、バレエ、演劇、各種式典、ファッションショーにも対応可能なプロセニウムを備えたエンドステージタイプの多目的ホールである。また、クラシックコンサート専用舞台の「昇降式音響シェルター」を装備しているほか、残響可変装置は地元桐生の織物で円筒状の吸音体を内包させた装置を天井から壁に沿って昇降させ残響を調整している。

そのほか、最大310人収容の小ホールは繭型平面を屏風状の反射板で囲ったユニークな多目的ホールである。また、4階のスカイホールは赤城山をはじめ、周辺の山々と市内を眺望できる最大460人収容のレセプションホールである。

この市民文化会館が新たな桐生市のシンボルとして、文化の殿堂となり、まちの活性化の拠点になるものと期待されている。



全景



ミルクホール（大ホール）



小ホール

施設の概要

敷地面積：19,750.23㎡

建築面積：7,608.58㎡

延床面積：18,214.75㎡

構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）

階数：地下1階、地上4階

受賞賛助会員 ㈱熊谷組

泉南市総合福祉センター建設工事

受賞機関 泉南市

はじめに

泉南市は大阪府南部に位置し、面積約47.3km²・人口約64,000人のまちである。関西国際空港の開港に併せて、都市基盤の整備を進めるとともに、恵まれた自然環境を生かした「水・緑・夢あふれる生活創造都市の創成」を目指している。

泉南市総合福祉センター（あいぴあ泉南）は、21世紀に向けた福祉都市建設を目指した市民参加による地域福祉の拠点として、身体障害者や高齢者・母子家庭など多種多様な福祉ニーズに対応するサービスと、市民交流と憩いの場を提供する施設として建設した。

①解放性・環境・透ける空間の創成

建設地は市のほぼ中心に位置しており、周辺地域には市役所をはじめ市民体育館・文化ホール・図書館が立地し、行政文化施設が集積しており、また、都市計画決定された公園と本田池に隣接し、前面道路には桜並木が続いている。

正面アプローチには池を配し、ポケットパークを設け桜並木との連続性をもたせ、建物内部には屋上庭園、中庭は池と竹林で構成し、水と緑の共生を計った。

外観は市民に開かれた施設として親しみやすいデザインとし、白磁のエンボスタイルを基調にガラス等透明感のある素材により構成し、中庭を取り囲みエントランス越しに中庭の竹林が透けて見通せる開放的で奥行き感のある景観とした。

②内部空間の構成

エントランスを入ると中庭を中心に、福祉・ふれあい・共用の3つのゾーンに利用・管理形態により分類し、それぞれのゾーンの独立性を確保しつつ、1階はエントランス、2階はブリッジ等で象徴的に各ゾーンのつながりをもたせることにより、市民の交流の場を演出した。

③文化活動・ふれあいの場の提供

250人収容の大会議室を設け、独奏会や講演・演劇等の開催・参加運営を通し、文化意識の高揚を行い文化活動の拠点となるよう計画し、また、自動ビデオロボットやボディソニックソファを有するAVコーナーや図書コーナー等様々な空間を設け、高齢者から子供まで気軽に利用してもらえるよう計画し、ふれあいと憩いの場を提供する。



夜はライトアップされる



正面アプローチと池

おわりに

平成9年7月にオープンして以来、数多くの人々に利用されている。本施設が福祉活動・文化活動の拠点として「健康と思いやりでいきいきと暮らせるまち」を目指し、地域福祉の発展に寄与することを期待している。

受賞賛助会員 不動建設(株)大阪本店